

キャリアコンサルタントの 年齢構成について

- 人生100年時代におけるリカレント教育等、キャリア自律の観点から、キャリアコンサルタントが持つ、職業生涯に亘る職業生活設計に関わる支援の役割に期待が高まる。
- 2016年国家資格化され、登録者数は順調に増加。キャリアコンサルタントの資質向上のための継続的な学び、実践的な経験の機会確保が不可欠。

◆ キャリアコンサルティングの普及促進

現状・課題

講じられている対応策

キャリアコンサルティング実施のための環境整備

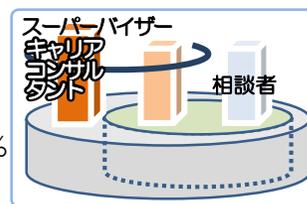
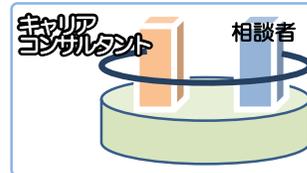
- **企業・産業界の理解**
 - ・キャリアコンサルティングを行う仕組みを導入：44.5%
 - ・導入企業のうちキャリアコンサルタントによる実施：8.3%
 - ・中小企業の導入割合が低い。非正規雇用労働者への実施が低い
- **労働者の理解**
 - ・自らの能力開発に問題意識：正社員：79.9%
正社員以外：70.5%
- **キャリアコンサルタントの活動領域の拡大**
 - ・「ほぼ毎日活動」：31.9% 「活動していない」：20.3%
 - ・活動領域：企業40.2% 需給調整23.8% 教育20.2%

- 国家資格化
(能力証明、キャリアコンサルティングの社会基盤整備)
- セルフ・キャリアドック
(企業への導入支援、拠点の展開)
- ジョブ・カード
(雇用型訓練。拠点展開。活用促進)
- 教育訓練給付制度
(訓練前キャリアコン)
- 職業能力開発推進者 (企業内)
- 能力評価基準

◆ キャリアコンサルタントの資質向上

継続的な学びのための体制整備

- キャリアコンサルタントが、**キャリアコンサルティングの実践経験**を積む環境整備
 - ・資格取得後における実務経験等の教育的仕組みが不十分
- **多様な相談者への対応力強化**
- キャリアコンサルタントが、**スーパービジョン**を受けられる環境整備
 - ・スーパービジョンを受けたキャリアコンサルタントの割合：13.7%
- **更新講習の充実** (5年ごとの更新制)
 - ・技能講習は、実施機関、講習数とも大幅増加
 - ・講習の地域的な偏在。受講講習のバランス
 - ・講習関連の情報提供の在り方



- 国家資格化、キャリアコンサルタント登録制度 (安定的運営)
- 養成講習の認定
(21講習、19機関)
- スーパーバイザーの資質・能力要件の明確化、養成のための標準プログラムへの展開
(調査研究事業実施中)
- 更新講習の指定
(知識：25講習、17機関
技能：341講習、62機関)

キャリアコンサルタントの年齢構成

○ 国家資格キャリアコンサルタントの登録者の年齢構成を見ると、50代が38.6%と最も多く、40代が29.7%、60代が16.3%となっている。

【年齢】

